

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務概論 I	指導担当者名	菅井雄作
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	就職するための心構えやマナーを学ぶ 履歴書の書き方や入退出などができるようにする		
評価方法 評価基準	授業態度、提出物 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	SUCCESS、筆記用具		
授業外学習の方法	インターネットを利用した企業研究		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る
	13	期末試験(一般常識)	自己PRの確認 一般常識など
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務概論 I	指導担当者名	菅井雄作
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	就職するための心構えやマナーを学ぶ 履歴書の書き方や入退出などができるようになる		
評価方法 評価基準	授業態度、提出物 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	SUCCESS、筆記用具		
授業外学習の方法	インターネットを利用した企業研究		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り
	2	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り
	3	制作書類 1	<small>3-8(3-8実践編)、加えて3-13(3-13実践編)、3-6(3-6まで履歴書、エントリーシート、記入状況など各種書類をかけるように、また、封筒の書き方、その他の書類(事務員の書類の手続き)、ポートフォリオなどの話しもして欲しい。*履歴書の作成</small>
	4	制作書類 2	<small>3-8(3-8実践編)、加えて3-13(3-13実践編)、3-6(3-6まで履歴書、エントリーシート、記入状況など各種書類をかけるように、また、封筒の書き方、その他の書類(事務員の書類の手続き)、ポートフォリオなどの話しもして欲しい。*履歴書の作成</small>
	5	制作書類 3	<small>3-8(3-8実践編)、加えて3-13(3-13実践編)、3-6(3-6まで履歴書、エントリーシート、記入状況など各種書類をかけるように、また、封筒の書き方、その他の書類(事務員の書類の手続き)、ポートフォリオなどの話しもして欲しい。*履歴書の作成</small>
	6	制作書類 4	<small>3-8(3-8実践編)、加えて3-13(3-13実践編)、3-6(3-6まで履歴書、エントリーシート、記入状況など各種書類をかけるように、また、封筒の書き方、その他の書類(事務員の書類の手続き)、ポートフォリオなどの話しもして欲しい。*履歴書の作成</small>
	7	企業訪問	5-1,5-2 準備、当日、事後の指導をしてください
	8	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入室
	9	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1
	10	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2
	11	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る
	12	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)
	13	期末試験(履歴書)	履歴書の作成
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	Office使用業務10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	Microsoft Officeの操作がひと通りできるようになる。		
評価方法 評価基準	期末テストと授業態度を評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	パソコン		
授業外学習の方法	プリントを配布しパソコンを利用した予習・復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	カレトモのメールアドレス配布
	2	Officeダウンロード	
	3	Excelの使い方	画面の説明とショートカットキー
	4	Excelの使い方	SUM関数
	5	Excelの使い方	counta関数
	6	Excelの使い方	if関数
	7	Excelの使い方	置換とセルの書式設定
	8	Excelの使い方	パーセンテージ
	9	Excelの使い方	見栄え
	10	Wordの使い方	縦横
	11	Wordの使い方	見栄え
	12	Wordの使い方	文章を書いてみる
	13	後期期末	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	Office使用業務10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	Microsoft Officeの操作がひと通りできるようになる。		
評価方法 評価基準	期末テストと授業態度を評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	パソコン		
授業外学習の方法	プリントを配布しパソコンを利用した予習・復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリエンテーション	前期の振り返り
	2	wordの使い方	表を入れる
	3	wordの使い方	ワードアート
	4	wordの使い方	画像の挿入
	5	wordの使い方	お礼文を書いてみる
	6	PowerPointの使い方	チラシをつくってみる
	7	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを作ってみる
	8	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを作ってみる2
	9	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを使って発表してみる
	10	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを使って発表してみる2
	11	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを使って発表してみる3
	12	PowerPointの使い方	期末テスト用シート
	13	後期期末試験	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション演習【PC実習】		指導担当者名	菅井 雄作	
実務経験	office使用業務に10年間以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	音響・ミュージック科1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	エクセルやワード、パワーポイントを習得し自ら作成、編集ができるようにする。				
評価方法 評価基準	授業態度および期末テストにて評価				
使用教材	PC Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集				
授業外学習 の方法	PCでの予習復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	カレトモのメールアドレス配布		
	2	Officeダウンロード			
	3	Excelの使い方	画面の説明とショートカットキー		
	4	Excelの使い方	SUM関数		
	5	Excelの使い方	counta関数		
	6	Excelの使い方	if関数		
	7	Excelの使い方	置換とセルの書式設定		
	8	Excelの使い方	パーセンテージ		
	9	Excelの使い方	見栄え		
	10	Wordの使い方	縦横		
	11	Wordの使い方	見栄え		
	12	Wordの使い方	文章を書いてみる		
	13	Wordの使い方	文章を書いてみる2		
	14	後期期末	テスト		
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション演習【PC実習】	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	office使用業務に10年間以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	エクセルやワード、パワーポイントを習得し自ら作成、編集ができるようにする。		
評価方法 評価基準	授業態度および期末テストにて評価		
使用教材	PC Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集		
授業外学習 の方法	PCでの予習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	前期の振り返り
	2	wordの使い方	表を入れる
	3	wordの使い方	ワードアート
	4	wordの使い方	画像の挿入
	5	wordの使い方	お礼文を書いてみる
	6	PowerPointの使い方	チラシをつくってみる
	7	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを作ってみる
	8	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを作ってみる2
	9	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを使って発表してみる
	10	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを使って発表してみる2
	11	PowerPointの使い方	プレゼン用のシートを使って発表してみる3
	12	PowerPointの使い方	期末テスト用シート
	13	PowerPointの使い方	期末テスト用シート
	14	後期期末試験	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	楽典概論 I	指導担当者名	吉田雄帆
実務経験	プロとして音楽理論を理解し使用する演奏業務に5年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	譜面が読めるようになる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 ・過去問題回答状況 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽典 筆記用具		
授業外学習の方法	プリントや教科書による復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介、授業の目標や意義等、プリント
	2	音名	幹音名、派生音、変化記号を理解する
	3	譜表	五線、音部記号を理解する
	4	音符と食材	全～16分音符休符、付点音符、連符を理解する
	5	豆テスト	プリント
	6	リズムと拍子1	拍子記号、小節、単純拍子、シンコペーションを理解する
	7	調号	12キーの見つけ方、# ♭ のつけ方、平行調を理解する
	8	読譜(略記法)	反復記号、D.S.、D.C.、to Codaを理解する
	9	豆テスト	プリント
	10	復習	いままでの復習、テスト対策
	11	音程1	音程関係、度数を理解する
	12	音程2	純正律、十二平均律、倍音を理解する
	13	期末試験	ペーパーテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	楽典概論 I	指導担当者名	吉田雄帆
実務経験	プロとして音楽理論を理解し使用する演奏業務に5年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	譜面が読めるようになる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 ・過去問題回答状況 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽典 筆記用具		
授業外学習の方法	プリントや教科書による復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	前期復習	
	2	和音2	4和音、テンションを理解する
	3	和音3	オルタードテンションを理解する
	4	豆テスト	プリント
	5	リズムと拍子2	弱拍強拍、複合拍子、単純拍子を理解する
	6	音階	短音階、移調転調、チャーチモードを理解する
	7	豆テスト	プリント
	8	楽譜読解1	実際の楽譜を使用した読解(バンド)
	9	楽譜読解2	実際の楽譜を使用した読解(クラシック)
	10	楽譜の作成1	楽曲から楽譜の作成をする
	11	楽譜の作成2	楽曲から楽譜の作成をする2
	12	楽譜の作成3	楽曲から楽譜の作成をする3
	13	期末試験	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	音響心理概論 I		指導担当者名	薄 崇雄	
実務経験	コンサート業務・音響現場に40年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に35年以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	音響・ミュージック科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	28時間		週時間数	1時間	
学習到達目標	(前期) 音響の仕事の種類を理解する オーケストラの音に慣れ親しむ 3級舞台機構調整学科受験演習および受験 (後期) 音響機器操作と人間の聴覚の融合				
評価方法 評価基準	舞台機構調整試験の過去に出題された試験問題による評価 楽器、音楽等のヒアリングテスト 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する				
使用教材	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション、舞台技術の共通基礎				
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	他己紹介、無記名質問用付箋紙		
	2	音響技術者の違い	レジュメ		
	3	検定試験の概要	テキスト、概要の理解		
	4	バイノーラルとステレオフォニック	ヘッドフォン・イヤホンについての説明とモニタースピーカーの説明。音楽CD		
	5	オーケストラ楽器のヒアリング	モニターSP、音楽CD		
	6	舞台照明概論(予定)	ライト・ヴァージの照明授業		
	7	学科試験問題演習、ヒアリング演習	舞台機構調整技能士の過去問題。		
	8	学科試験問題演習、ヒアリング演習	舞台機構調整技能士のヒアリング。		
	9	学科試験問題演習、ヒアリング演習	舞台機構調整技能士の実技		
	10	3級受験直前学科演習	過去に出題された問題を解いてみる。P23。		
	11	3級受験直前学科演習	過去に出題された問題。P21。		
	12	3級受験判断等試験(ヒアリング) 直前演習	テキスト、モニターSP、音楽CD		
	13	前期試験	※ヒアリングを毎回入れる		
	14	期末試験フィードバック			
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	音響心理概論 I	指導担当者名	薄 崇雄
実務経験	コンサート業務・音響現場に40年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に35年以上従事		実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	(前期) 音響の仕事の種類を理解する オーケストラの音に慣れ親しむ 3級舞台機構調整学科受験演習および受験 (後期) 音響機器操作と人間の聴覚の融合		
評価方法 評価基準	舞台機構調整試験の過去に出題された試験問題による評価 楽器、音楽等のヒアリングテスト 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション、舞台技術の共通基礎		
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	ミキシングエンジニアの役割	テキストP19、スピーカーによるヒアリング
	2	安全について、非常放送・火災警報器	テキスト、現場見学
	3	音量、音質について	テキストP17、スピーカーによるヒアリング
	4	楽器の発音構造	テキストP15、スピーカーによるヒアリング
	5	人間の声の特性	音源再生してスペクトラムアナライザを使用し音声分析する
	6	ホールの構造	テキストの図面を使用しホールの網元などの機構を知る
	7	EQについて	テキストP37、スピーカーによるヒアリング
	8	エフェクターについて(リバーブ)	テキストP50、スピーカーによるヒアリング
	9	エフェクターについて(コンプレッサー)	テキストP56、スピーカーによるヒアリング
	10	ワンポイントステレオ録音	X-Y方式のマイキングによる録音を知る
	11	ライブ録音	ライブ時の録音で注意することや気にかけてないといけない事を知る
	12	圧縮と音響心理	mp3などの圧縮された音源とそれを聞いた人の心理的効果
	13	後期期末試験	
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	Protools基礎演習	指導担当者名	奥川晃司
実務経験	ProToolsを使用した業務に4年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	作曲からミキシングまで一人で行える様にする。その過程で分からない事、できない事などを解決しprotoolsを扱える様にする。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 protoolsを扱えているか、聞く側が気持ちよく聞ける音を作れているか。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	Protools ヘッドフォン		
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ptotools基礎の復習01	一年生時の復習、確認
	2	protools基礎の復習02	一年生時の復習、確認
	3	作曲からミキシングまでの流れ	流れを確認
	4	打ち込み01	ドラム、ベース、ピアノを打ち込む。
	5	打ち込み02	ドラム、ベース、ギターを打ち込む。エレキギターを録音する。
	6	ミキシング01	打ち込みで作ったものをミキシングする。
	7	ミキシング02	作品を打ち込む。
	8	音の聴き比べ01	EQやコンプレッサーをかける前とかけた後での音の違い
	9	音の聴き比べ02	エフェクターのかけ方やかけた後の変化を聞く
	10	打ち込み03	作品を打ち込む。
	11	ミキシング03	打ち込みで作ったものをミキシングする。
	12	音の聴き比べ03	エフェクターをかけた後とかける前の聴き比べ
	13	前期期末	制作物による評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	ProTools基礎演習	指導担当者名	奥川晃司
実務経験	ProToolsを使用した業務に4年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	作曲からミキシングまで一人で行える様にする。その過程で分からない事、できない事などを解決しprotoolsを扱える様にする。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 protoolsを扱えているか、聞く側が気持ちよく聞ける音を作れているか。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	Protools ヘッドフォン		
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	前期の復習	前期の復習
	2	ミキシング01	自分の作品、もしくは用意した作品をミキシングする。
	3	ミキシング02	空間系の処理
	4	ミキシング03	ダイナミクス系の処理
	5	ミキシング04	マスタリングでの処理
	6	発表	作品とミキシングしたものを発表。
	7	反省	反省点を見つけ、次に生かす。
	8	エフェクター&小技	エフェクターのかけ方や面白い使い方。
	9	打ち込み&ミキシング	作品を打ち込みからミキシングまで自分で作る。MIDIの処理
	10	打ち込み&ミキシング	作品を打ち込みからミキシングまで自分で作る。オーディオの処理
	11	打ち込み&ミキシング	ミックスダウン
	12	打ち込み&ミキシング	マスタリングでの処理
	13	後期期末試験	制作物による評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習 I	指導担当者名	安藤 圭太
実務経験	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	ProTools		
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学习		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	面談	
	2	マイクの種類	ダイナミックマイクの使い方を知る
	3	マイクの種類	コンデンサーマイクの使い方を知る
	4	ドラム録音	マイキングを知る
	5	ドラム録音	音の加工仕方を身に付ける
	6	ギターベース録音	マイキングを知る
	7	ギターベース録音	音の加工仕方を身に付ける
	8	カホン録音	マイキングを知る
	9	カホン録音	音の加工仕方を身に付ける
	10	ピアノ録音	マイキングを知る
	11	ピアノ録音	音の加工仕方を身に付ける
	12	テスト対策	前期の復習
	13	前期期末試験	録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習 I	指導担当者名	安藤 圭太
実務経験	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法の基礎を習得する		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	ProTools		
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学习		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	Agt録音	マイキングを知る
	2	Agt録音	音の加工仕方を身に付ける
	3	Vo録音	マイキングを知る
	4	Vo録音	音の加工仕方を身に付ける
	5	ダイナミクス系エフェクター	コンプレッサーの使い方を理解する
	6	ダイナミクス系エフェクター	EQの使い方を理解する
	7	空間系エフェクター	リバーブの使い方を理解する
	8	空間系エフェクター	ディレイの使い方を理解する
	9	楽器解説	各楽器の名称と効果を理解する
	10	楽器の取り扱い	ドラム取り扱い方を知る
	11	楽器の取り扱い	ギターベースの取り扱い方を知る
	12	テスト対策	後期復習
	13	後期期末試験	録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習 I		指導担当者名	薄 崇雄
実務経験	コンサート業務・音響現場に40年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に35年以上従事			実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
時間数	84時間		週時間数	3時間
学習到達目標	(前期) プロフェッショナルな音、音響機材に慣れる 舞台機構調整 製作等作業試験受験 舞台機構調整 判断等試験受験 (後期) ナレーション、音楽、効果音ミキシングによる作品(CD)製作			
評価方法 評価基準	舞台機構調整(製作等作業試験、判断等試験)模擬試験 作成された作品(CD)の評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	舞台技術の共通基礎			
授業外学習 の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	プロの音に慣れる	好みの持ち込みCDヒアリング	
	2	ミキシングコンソールの構造	分解用ミキサー	
	3	ケーブル・コネクタ、スタンドの種類	マイクケーブル、マイクスタンド、スピーカースタンド	
	4	ミキサーの操作	ミキサー、モニタースピーカー、CD	
	5	製作等作業試験の実習 (問題読み合わせ)	検定用機材を使用した実技。注意点	
	6	舞台照明実習(予定)	ライト・ヴァージによる照明の授業	
	7	製作等作業試験の実習	検定用機材を使用した実技。マイキング。	
	8	判断等試験、製作等作業試験の実習	検定用機材を使用した実技。ミキサーの操作	
	9	判断等試験、製作等作業試験の実習	検定用機材を使用した実技。CD再生機の操作	
	10	判断等試験、製作等作業試験の実習	検定用機材を使用した実技。ケーブルの繋ぎ方とマイキングの復習	
	11	判断等試験、製作等作業試験の実習	検定用機材を使用した実技。ヘッドアンプの取り方	
	12	判断等試験、製作等作業試験の実習	検定用機材を使用した実技。一連の流れの復習	
	13	前期期末(ヒアリング)	ミキサー、アンプ、スピーカー、CDプレーヤー	
	14	期末試験フィードバック		
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習 I		指導担当者名	薄 崇雄
実務経験	コンサート業務・音響現場に40年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に35年以上従事			実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	(前期) プロフェッショナルな音、音響機材に慣れる 舞台機構調整 製作等作業試験受験 舞台機構調整 判断等試験受験 (後期) ナレーション、音楽、効果音ミキシングによる作品(CD)製作			
評価方法 評価基準	舞台機構調整(製作等作業試験、判断等試験)模擬試験 作成された作品(CD)の評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	舞台技術の共通基礎			
授業外学習 の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	Audacityの操作、構成台本製作	Audacityを使用してミックスの練習	
	2	台本製作、素材加工	台本を見ながら音声の編集。BGMや効果音とのバランスを見る。Audacityを使用。	
	3	ナレーション、SE、音楽のミキシング	アナログミキサーを使用してナレーションとBGM、音素材をリアルタイムでミックスしていく(回数を重ねることで精度を上げるため連続して何タームか行う)	
	4	ナレーション、SE、音楽のミキシング	アナログミキサーを使用してナレーションとBGM、音素材をリアルタイムでミックスしていく(回数を重ねることで精度を上げるため連続して何タームか行う)	
	5	ナレーション、SE、音楽のミキシング	デジタルミキサーを使用してナレーションとBGM、音素材をリアルタイムでミックスしていく(回数を重ねることで精度を上げるため連続して何タームか行う)	
	6	ナレーション、SE、音楽のミキシング	デジタルミキサーを使用してナレーションとBGM、音素材をリアルタイムでミックスしていく(回数を重ねることで精度を上げるため連続して何タームか行う)	
	7	ナレーション、SE、音楽のミキシング	デジタルミキサーを使用してナレーションとBGM、音素材をリアルタイムでミックスしていく(回数を重ねることで精度を上げるため連続して何タームか行う)	
	8	素材加工、PCソフト編集	audacityもしくはPtoToolsを使用して音声編集作業。	
	9	PCソフト編集(個人)	CDを作るまでの作業を行う。はじめにEQと音量バランス	
	10	PCソフト編集(個人)	コンプレッサーやリバーブなどのエフェクター追加	
	11	PCソフト編集、マスタリング、CD製作	書き出ししての確認	
	12	PCソフト編集、マスタリング、CD製作	個人PCと試聴用モニターを使いブランクCDに出来上がった音声を焼く。	
	13	後期期末試験	プリントによるテスト	
	14	期末試験フィードバック		
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	楽曲制作実習 I	指導担当者名	吉田雄帆
実務経験	プロとして5年以上作曲・演奏活動に従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	打ち込みや録音をし、オリジナル楽曲を作れるようにする		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 条件に沿った楽曲の制作を課題とし、評価する 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	Protools 楽器		
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	アンケート	プリント
	2	オリエンテーション	自己紹介、授業内容の説明
	3	Pro Toolsのセットアップ、使い方	Pro tools、PC
	4	打ち込み	インストゥルメントやMIDIの取り扱い方
	5	録音1	オーディオファイルの取り扱い方
	6	作曲	Pro toolsを使ってみる
	7	作曲	MIDIでの作曲
	8	作曲	楽器を使用しての作曲
	9	作曲	リズム隊の使い方説明
	10	作曲	ハーモニーの効果に説明
	11	作曲	メロディの作り方説明
	12	楽曲制作	テストへ向けて制作の準備
	13	テスト	条件を提示して、それに沿った課題としてワンコーラス制作
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	楽曲制作実習 I	指導担当者名	吉田雄帆
実務経験	プロとして5年以上作曲・演奏活動に従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	打ち込みや録音をし、オリジナル楽曲を作れるようにする		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 条件に沿った楽曲の制作を課題とし、評価する 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	Protools 楽器		
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	ダイアトニック	ダイアトニックコード、機能
	2	条件付き作曲1	Pro tools、PC
	3	条件付き作曲2	Pro tools、PC
	4	録音2	ミキシングや編集の仕方
	5	コード進行について	様々なコード進行、ダイアトニック外のコードの使い方
	6	コード進行について	II-V-I の進行を使用した作曲
	7	アレンジ	アレンジによる楽曲の広がり方、表情のつけ方、メリハリ
	8	アレンジ	リズムアレンジ
	9	構成について	Aメロ、Bメロ、サビ、Cメロの役目
	10	構成について	サビから始まる楽曲の制作
	11	復習	学んだことの復習
	12	条件付き作曲3	Pro tools、PC
	13	テスト	条件を提示して、それに沿った課題としてワンコーラス制作
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究概論 I		指導担当者名	市川 和哉	
実務経験	音楽関係会社勤務(楽器販売,レコーディングスタジオ,音楽教室等)、音楽イベント企画立案業務に10年以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	音響・ミュージック科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:○	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	音楽業界は様々な職業があって成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけそれを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。				
評価方法 評価基準	授業態度やレポート提出、試験結果を評価方法とする。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する				
使用教材	筆記用具 PC				
授業外学習の方法	プリントでの学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介や今度の流れ、目標決定		
	2	音楽業界の仕事	様々な職種を知りその中からやりたい職種を探す		
	3	アーティストおよびそれを支える職種	自分がアーティストになったらどんな宣伝方法をするか?		
	4	楽器店やスタジオの仕事とは	楽器製作、流通、販売、接客など覚える		
	5	シールドを作成してみよう	プラグやシールドの発注		
	6	ライブハウスの仕組みについて	ライブハウスはどのように成り立っているか		
	7	イベンターとは	イベンターや企画会社のように自分たちで企画してみる		
	8	イベンターとは	企画書提出、発表してもらう。		
	9	動画・写真の活用	MVや宣伝動画、写真撮ってみる。		
	10	動画・写真の活用	発表をして、他の生徒がどう思ったのかアンケートをとる		
	11	音楽のチラシやCDなどのデザイン	音楽業界にも必要なチラシやデザインを知る		
	12	音楽のチラシやCDなどのデザイン	できたデザインの提出		
	13	前期期末テスト	プリントによるテスト		
	14	期末試験フィードバック			
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究概論 I	指導担当者名	市川 和哉
実務経験	音楽関係会社勤務(楽器販売,レコーディングスタジオ,音楽教室等)、音楽イベント企画立案業務に10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:○
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	音楽業界は様々な職業があって成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけそれを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。		
評価方法 評価基準	授業態度やレポート提出、試験結果を評価方法とする。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	筆記用具 PC		
授業外学習の方法	プリントでの学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	前期の復習と課題発表	コミュニケーションとは？グループで話し合う
	2	コミュニケーション能力を身に付けよう	実際に興味を持ってもらう話をする(発表)
	3	コミュニケーション能力をみに付けよう	自分の得意分野など指導案を作成する
	4	指導力を身に付けよう	実際に他の生徒に指導してもらう
	5	指導力を身に付けよう	音楽業界で発売されているグッズなど考え作成
	6	売れる商品(グッズ)を考えてみよう	実際に売ってみよう!
	7	売れる商品(グッズ)を考えてみよう	#REF!
	8	著作権	著作権法とクリエイティブコモンズ
	9	お金の動き	楽曲が売れてからアーティストに分配されるまで
	10	違法音楽アプリ	違法音楽アプリの危険性
	11	ストリーミング配信	apple musicをはじめとした配信音楽がどう成り立っているか
	12	ライブとしての音楽	ライブにがどう成り立っているか
	13	後期期末	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション概論		指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。			
評価方法 評価基準	筆記試験、出席率、課題提出による評価を行う 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	コミュニケーション検定初級 テキスト			
授業外学習 の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明	
	2	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	1-1コミュニケーションを考える	
	3	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	2-1目的に即して働く	
	4	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	2-2傾聴・質問する	
	5	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-1目的を意識する	
	6	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-1目的を意識する	
	7	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-2話を組み立てる	
	8	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-2話を組み立てる	
	9	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-3言葉を選び抜く	
	10	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-3言葉を選び抜く	
	11	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-4表現伝達する	
	12	前期期末試験	コミュニケーション概論 期末試験	
	13	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	まとめ・復習	
	14	期末試験	1-1来客対応	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション概論	指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。		
評価方法 評価基準	筆記試験、出席率、課題提出による評価を行う 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	コミュニケーション検定初級 テキスト		
授業外学習 の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	期末試験振り返り	1-2電話応対
	2	コミュニケーションプラクティス(実践)	1-3アポイントメント・訪問・挨拶
	3	コミュニケーションプラクティス(実践)	1-4情報共有の重要性
	4	コミュニケーションプラクティス(実践)	1-4情報共有の重要性
	5	コミュニケーションプラクティス(実践)	1-5チームコミュニケーション
	6	コミュニケーションプラクティス(実践)	2-1接客営業
	7	コミュニケーションプラクティス(実践)	2-2クレーム対応
	8	コミュニケーションプラクティス(実践)	2-3会議・取材・ヒアリング
	9	コミュニケーションプラクティス(実践)	2-4面接
	10	コミュニケーションプラクティス(実践)	2-4面接
	11	検定対策	本番の検定に向けて振り返り
	12	検定対策	本番の検定に向けて振り返り
	13	期末試験	本番の検定に向けて振り返り
	14	期末試験振り返り	検定実施
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	デザイン演習	指導担当者名	奥川 晃司
実務経験	ProToolsを使用した業務に4年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	protoolsの基本的な操作を身につける。ProToolsに多く触れる事で使い慣れる。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	Protools ヘッドフォン		
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ProToolsとは01	Protoolsとは何の為のものなのかを確認。
	2	ProToolsとは02	Protoolsとは何の為のものなのかを実際に触って確認。
	3	ProTools基礎01	Protoolsの起動の仕方や打ち込み方など実際に触る。
	4	ProTools基礎02	トラックの作成方法と各トラックの説明
	5	ProTools基礎03	AUXトラックの使い方を覚える
	6	ProTools基礎04	インサートプラグインを覚える
	7	ProTools基礎05	リバーブの使い方を覚える
	8	ProTools基礎06	ディレイの使い方を覚える
	9	ProTools基礎07	フェーズスイッチの使い方を覚える
	10	ProTools基礎08	コンプレッサーの使い方を覚える
	11	ProTools基礎09	EQの使い方を覚える
	12	ProTools基礎10	パンポットの使い方を覚える
	13	前期期末	作品提出によるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	デザイン演習	指導担当者名	奥川 晃司
実務経験	ProToolsを使用した業務に4年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	protoolsの基本的な操作を身につける。ProToolsに多く触れる事で使い慣れる。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	Protools ヘッドフォン		
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	前期の復習	前期の復習
	2	打ち込み01	実際に打ち込んで作品を作る。
	3	打ち込み02	MIDI鍵盤を使用し作品を作る。
	4	打ち込み03	生楽器を録音して作品を作る。
	5	発表01	作品を発表する。
	6	エフェクターをかける01	マスタリングようなエフェクター
	7	エフェクターをかける02	最終調整
	8	発表02	エフェクターをかける前と後での違いを発表する。
	9	ミキシング01	配布される題材をミキシングする。低音部の処理
	10	ミキシング02	配布される題材をミキシングする。中音部の処理
	11	ミキシング03	配布される題材をミキシングする。高音部の処理
	12	ミキシング04	配布される題材をミキシングする。自分でやって見る
	13	後期期末試験	作品提出によるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	アンサンブル I	指導担当者名	片桐 信吾
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:○
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	アンサンブルの音楽以外の意味を理解する。アンサンブルに必要な知識と技術の習得を目指す。とりわけセッションの分野での自己表現を学習する。全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。		
評価方法 評価基準	出席、授業態度、単純な技術と知識、個性などをテストも踏まえ総合的に判断する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽器		
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	セッションのルールと知識	
	2	12小節のブルース進行	キーを変えコードと小説の感覚も鍛える。
	3	8ビート、16ビート。	リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。
	4	裏のリズム。ディスコビート。	IDM系リズムと曲の学習。
	5	12/8ビート。シャッフル。	シャッフルの感覚と曲の学習。
	6	ビートシフト。感覚トレーニング。	グループを出すための感覚の習得。
	7	バウンス。ファンク。	スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。
	8	ハーフタイムシャッフル。	ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標にシャッフルを覚える。
	9	ボサノバ。レゲエ。	ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。
	10	サンバ。	速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。
	11	ジャズ2ビート、4ビート。	ジャズスタンダードを学習する。
	12	奇数ビート。	奇数曲と感覚を学習する。
	13	テスト	演奏によるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	アンサンブル I		指導担当者名	片桐 信吾	
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	音響・ミュージック科 1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:○	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	アンサンブルの音楽以外の意味を理解する。アンサンブルに必要な知識と技術の習得を目指す。とりわけセッションの分野での自己表現を学習する。全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。				
評価方法 評価基準	出席、授業態度、単純な技術と知識、個性などをテストも踏まえ総合的に判断する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する				
使用教材	楽器				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	楽曲「スペイン」	リズムを覚える		
	2	楽曲「スペイン」	コード進行を覚える		
	3	楽曲「スペイン」	メロディを覚える		
	4	楽曲「スペイン」	アドリブをみんなで回す		
	5	楽曲「スペイン」	合奏		
	6	楽曲「ラフィエスタ」	進行を覚える		
	7	楽曲「ラフィエスタ」	リズムを覚える		
	8	楽曲「ラフィエスタ」	コード進行を覚える		
	9	楽曲「ラフィエスタ」	メロディを覚える		
	10	楽曲「ラフィエスタ」	アドリブをみんなで回す		
	11	楽曲「ラフィエスタ」	合奏①		
	12	楽曲「ラフィエスタ」	合奏②		
	13	テスト	演奏によるテスト		
	14	期末試験フィードバック			
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習	指導担当者名	片桐 信吾
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:○
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。		
評価方法 評価基準	出席、授業態度、単純な技術と知識、個性などをテストも踏まえ総合的に判断する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽器		
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	セッションのルールと知識	
	2	12小節のブルース進行	キーを変えコードと小節の感覚も鍛える。
	3	8ビート、16ビート。	リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。
	4	裏のリズム。ディスコビート。	IDM系リズムと曲の学習。
	5	12/8ビート。シャッフル。	シャッフルの感覚と曲の学習。
	6	ビートシフト。感覚トレーニング。	グループを出すための感覚の習得。
	7	バウンス。ファンク。	スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。
	8	ハーフタイムシャッフル。	ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標に。
	9	ボサノバ。レゲエ。	ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。
	10	サンバ。	速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。
	11	ジャズ2ビート、4ビート。	ジャズスタンダードを学習する。
	12	奇数ビート。	奇数曲と感覚を学習する。
	13	テスト	演奏によるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習	指導担当者名	片桐 信吾
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 1年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:○
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。		
評価方法 評価基準	出席、授業態度、単純な技術と知識、個性などをテストも踏まえ総合的に判断する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽器		
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	楽曲「スペイン」	リズムを覚える
	2	楽曲「スペイン」	コード進行を覚える
	3	楽曲「スペイン」	メロディを覚える
	4	楽曲「スペイン」	アドリブをみんなで回す
	5	楽曲「スペイン」	合奏
	6	楽曲「ラフィエスタ」	進行を覚える
	7	楽曲「ラフィエスタ」	リズムを覚える
	8	楽曲「ラフィエスタ」	コード進行を覚える
	9	楽曲「ラフィエスタ」	メロディを覚える
	10	楽曲「ラフィエスタ」	アドリブをみんなで回す
	11	楽曲「ラフィエスタ」	合奏①
	12	楽曲「ラフィエスタ」	合奏②
	13	テスト	演奏によるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	企画制作実習 I		指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	音響イベント会社にて、イベント企画・運営事業に3年以上従事			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	校内ライブやホール実習を制作運営することで、ステージの運営の仕方や制作方法を学び、誰でもわかりやすい書類の作成をできるようにする。 また、自発的に実習が動けるようにする。			
評価方法 評価基準	授業中の積極性や実習中の動きで評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	PC 音響機材 照明機材 ペン			
授業外学習の方法	プリントによる学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	照明機材の操作方法と考え方	LEDの設定を試みる	
	2	照明機材の操作方法と考え方	照明の立て方などによる危険を知る	
	3	照明機材の操作方法と考え方	デジタル信号を理解する	
	4	照明機材の操作方法と考え方	照明卓の扱い方を知る	
	5	照明機材の操作方法と考え方	音楽に合わせて照明を付ける	
	6	音響機材の操作方法	オーディオ信号の流れを確認する	
	7	音響機材の操作方法	結線方法をできるようにする	
	8	音響機材の操作方法	スピーカーチューニングのやり方を身に付ける	
	9	音響機材の操作方法	音響システムを組み上げができるようにする	
	10	ホール実習制作	音響に必要な回線表を理解する	
	11	ホール実習制作	舞台照明用の仕込み図を理解する	
	12	ホール実習制作	ステージ運営に必要な香盤表(スケジュール表)を理解する	
	13	前期期末	校内ライブ及びホール実習の動きによって評価	
	14	期末試験フィードバック		
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	企画制作実習 I		指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	音響イベント会社にて、イベント企画・運営事業に3年以上従事			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	校内ライブやホール実習を制作運営することで、ステージの運営の仕方や制作方法を学び、誰でもわかりやすい書類の作成ができるようにする。 また、自発的に実習が動けるようにする。			
評価方法 評価基準	授業中の積極性や実習中の動きで評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	PC 音響機材 照明機材 ペン			
授業外学習の方法	プリントによる学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	必要書類作成: 舞台平面図	舞台平面図の構造を理解する	
	2	必要書類作成: 舞台平面図	舞台平面図の作成に必要な長さの計り方を理解する	
	3	必要書類作成: 舞台平面図	自分たちで舞台平面図を作ってみる	
	4	必要書類作成: 回線表とブロック図	音響に必要な回線表とブロック図の復習	
	5	必要書類作成: 回線表とブロック図	自分たちで作ってみる回線表とブロック図を作ってみる	
	6	舞台での立ち回り	どういう所に危険が潜んでいるか予知できるようになる	
	7	舞台での立ち回り	周りを見ることで助けが必要な箇所やパワーバランスを見れるようにする	
	8	舞台での立ち回り	導線という考え方を理解する	
	9	舞台での立ち回り	設営時に気をつけることを知る	
	10	ホール実習制作	ホールを借りるときに必要な消費電力の計算方法を知る	
	11	ホール実習制作	台本の作り方を知る	
	12	ホール実習制作	良い音に仕上げる方法を知る	
	13	後期期末試験	校内ライブ及びホール実習の動きによって評価	
	14	期末試験フィードバック		
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作	指導担当者名	菅井雄作	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	音響・ミュージック科1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:	
時間数	180時間	週時間数	6週/180時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科で学んだ内容を活かした作品制作 ・テーマを掲げ対象者を意識した作品制作 ・自らの作品をアピールするプレゼンテーションが出来る 			
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・修了生:それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で1年間の集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」 			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム (週)	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても可視化していく	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など	
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作	
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 *学科内シフトにより登校 展示終了後は撤収と作品保管をする	
	履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、発表機会を与えない ・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンを実施 そこで一定の評価があれば合格とする ・再プレゼンで不合格の場合認定となる 				

授業計画(シラバス)

科目名	社会人マナーⅡ概論	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	イベント企画運営事業に3年以上従事		実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	イベントを企画運営するために必要なアイデアの出し方、プレスト、大量のアイデアを分類する。 アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。 また実際にアイデアを出し校内ライブなどで反映、どんな効果があったかをみる。		
評価方法 評価基準	普段の授業態度や積極性、制作物で評価。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	ペン パソコン		
授業外学習の方法	本を読み自分の世界を広げる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	この授業の意義
	2	校内ライブの足りない部分	爆発的思考とまとめ方を知る
	3	ライブの改善点を洗い出す	紙とペン、模造紙、付箋
	4	お金	経済とお金がどう絡んでいるかを知る
	5	働くって何？	ディスカッション「仕事とは」仕事を作るということについて知る。
	6	ワクワクする	自分の嗜好性と仕事を理解する
	7	好奇心	好奇心を強く持つことで視野が広がる
	8	自ら動く	自分から動くことで変わる
	9	文章を読む	能動的に情報・考え方を得る方法
	10	変化する	自分が変わる要因を知る
	11	試行錯誤	失敗してもやり続ける必要性を知る
	12	多様性	自分以外がいるということ受け入れる
	13	後期期末	企画書とプレゼンによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	社会人マナーⅡ概論	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	イベント企画運営事業に3年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年生
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	イベントを企画運営するために必要なアイデアの出し方、プレスト、大量のアイデアを分類する。 アクティブラーニングを主体とした学びを重視する。 また実際にアイデアを出し校内ライブなどで反映、どんな効果があったかをみる。		
評価方法 評価基準	普段の授業態度や積極性、制作物で評価。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	ペン パソコン		
授業外学習の方法	本を読み自分の世界を広げる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	企画書の書き方	紙とペン、模造紙、付箋
	2	企画を立てる	仕事を作るために企画を立てる
	3	自分の夢	自分がやりたいこと
	4	表現すること	表現するということは嫌われること
	5	車輪の再発明	既にある技術やモノを発明してしまうこと
	6	コスト	コストとは何か?どこに存在するか?を知る
	7	善悪	悪は存在するか?
	8	魅せる	人が魅了されるには
	9	伝えることの重要性	伝えなければ分からない。伝える方法を得る
	10	表現	表現方法の模索
	11	インスタレーション	インスタレーションを企画してみる
	12	ライブ	生で見る楽しさ
	13	後期期末試験	企画書とプレゼンによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	イベント企画運営事業に3年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。		
評価方法 評価基準	提出物と期末テストにて評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	パソコン カメラ ATEM		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	動画とカメラ	カメラの使い方や動画の作り方
	2	動画を作ってみる	premiere proを使用した動画制作
	3	動画を作ってみる2	premiere proを使用動画の書き出し方法
	4	配信準備	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。
	5	配信準備2	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。
	6	配信準備3	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。
	7	配信	配信に必要なブロック図と配線の書き方
	8	配信2	配信するソフトウェアの説明
	9	配信3	youtubeの設定と配信
	10	配信4	配信テスト
	11	配信と音声	映像と音声を配信する。
	12	配信と音声2	配信用音響卓の設置してみる。
	13	後期期末	配信ができるか実技によるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	イベント企画運営事業に3年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。		
評価方法 評価基準	提出物と期末テストにて評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	パソコン カメラ ATEM		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	前期振り返り	
	2	配信のためのプランニング	配信時間を考える
	3	タイムコード	音声と映像を合わせる
	4	CMを作ってみる	配信中にCMを流してみる
	5	配信必要な素材	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる
	6	良い音で配信するためには？	配信での良い音する方法
	7	音楽以外の配信プラン	朗読劇での配信
	8	音楽以外の配信プラン	e-Sportsでの配信
	9	音楽以外の配信プラン	演劇での配信
	10	校内ライブで配信するたのプラン	配信プランを立ててみる
	11	校内ライブで配信するたのプラン	実際に配信をしてみる
	12	校内ライブで配信するたのプラン	弾き語りの配信をしてみる
	13	期末テスト	配信ができるか実技によるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	著作権概論	指導担当者名	矢田部翔子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASICの取得		
評価方法 評価基準	・出席率・課題評価・授業態度・試験結果 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト		
授業外学習 の方法	テキストの復習等		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、模擬オーディション
	2	試験概要説明	ビジネス著作権検定の試験概要、著作権を学習する前について
	3	第1章 著作権とは何か	著作権とは何か
	4	第2章 著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの(1)(2)
	5	第2章 著作権で保護されるもの②	著作権で保護されるもの(3)(4)
	6	第2章 著作権で保護されるもの③	著作物該当性に関するその他の問題点、著作物の例示、特別な著作物
	7	第3章 著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者
	8	第4章 著作権の内容①	著作権の内容 人格権と財産権、著作者人格権(公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性)
	9	第4章 著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権
	10	第4章 著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物
	11	著作権のトラブル	著作権が絡む事件・ニュースを調べる
	12	第5章 著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護
	13	著作権前期復習	前期学習内容の復習
	14	期末試験	著作権概論 筆記試験
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	著作権概論		指導担当者名	矢田部翔子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASICの取得			
評価方法 評価基準	・出席率・課題評価・授業態度・試験結果 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト			
授業外学習 の方法	テキストの復習等			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	期末試験振り返り	著作権の譲渡、利用許諾、契約	
	2	第7章 勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係①、②	
	3	第7章 勝手に使える場合がある②	付属的著作物、教育関係、図書館関係	
	4	第7章 勝手に使える場合がある③	非営利無償の上演・演奏等、貸与、引用関係	
	5	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは	
	6	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度②	著作隣接権者(実演家、レコード製作者)	
	7	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度③	著作隣接権者(放送事業者、有線放送事業者)、著作隣接権の保護期間	
	8	第9章 勝手に使うとどうなるか①	著作権の侵害	
	9	第9章 勝手に使うとどうなるか②	みなし侵害、著作権侵害罪、民事的対策	
	10	第10章 著作権に関する制度	知的財産権、情報モラルと著作権	
	11	検定対策①	模擬問題	
	12	期末試験	模擬問題	
	13	検定対策②	模擬問題	
	14	期末試験振り返り	著作権検定の実施	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	音響心理概論Ⅱ	指導担当者名	薄 崇雄
実務経験	コンサート業務・音響現場に40年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に35年以上従事		実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	音響ミキシング技術の理論的根拠としての聴覚心理を学ぶ 劇場、ホールの基礎知識と舞台音響について学ぶ 舞台技術者に必要とされる基礎技術を学ぶ		
評価方法 評価基準	音響用語等の知識(ペーパーテスト) ミキシングされた音楽のヒアリングテスト 舞台仕込図、音響プランの作成 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション、舞台技術の共通基礎		
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	音響技術者の音の聴き方(概論)	レジュメ
	2	音の様々な現象	ドブラー効果ハース効果などを理解する
	3	ミキシング(エフェクター)	リバーブを使用する
	4	ミキシング(エフェクター)	コンプレッサーを使用する
	5	マイクの特徴	指向性や近接効果などを理解する
	6	舞台照明概論(予定)	ライト・ヴァージによる照明の授業
	7	舞台用語	テキストP50
	8	舞台構造、舞台図面	テキストP35
	9	劇場の音響システム	テキストP30
	10	舞台図の作成	舞台平面図を作成することによりステージを理解する
	11	音響システムブロック図の作成	音響設備をブロック図作成により理解する
	12	音響プランの作成Ⅰ	ライブでの適正な音響プランを立てられるようにする。
	13	前期期末	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	音響心理概論Ⅱ		指導担当者名	薄 崇雄	
実務経験	コンサート業務・音響現場に40年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に35年以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	音響・ミュージック科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	28時間		週時間数	1時間	
学習到達目標	音響ミキシング技術の理論的根拠としての聴覚心理を学ぶ 劇場、ホールの基礎知識と舞台音響について学ぶ 舞台技術者に必要とされる基礎技術を学ぶ				
評価方法 評価基準	音響用語等の知識(ペーパーテスト) ミキシングされた音楽のヒアリングテスト 舞台仕込図、音響プランの作成 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する				
使用教材	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション、舞台技術の共通基礎				
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	楽器の基礎知識	マイク收音とライン收音の違いを知る		
	2	EQの知識Ⅰ	テキストP168		
	3	EQの知識Ⅱ	テキストP170		
	4	エフェクターの知識Ⅰ	テキストP171		
	5	エフェクターの知識Ⅱ	資料配布による学習		
	6	音響測定と聴感	ハウリングの効用やアナライザー、リサージュなど測定機器の見方を知る		
	7	催し物の種類と音響	資料使用し催しものの種類を知り、それに適した音響プランを立てる。		
	8	空間の知識	ホールの形態やルームアコースティックを理解する		
	9	ホール舞台図面	実際のホール舞台図面を使用し、より深く図面を読み解けるようにする		
	10	音響プラン制作基礎	舞台図を見ながら音響システム図の作成		
	11	音響プラン制作	音響業務に必要な情報収集		
	12	実際の催し物の音響プラン制作Ⅰ	催し物仕込み図の制作		
	13	後期期末試験	プリントによるテスト		
	14	期末試験フィードバック			
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	楽典概論Ⅱ	指導担当者名	吉田雄帆
実務経験	プロとして音楽理論を理解し使用する演奏業務に5年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	楽典の知識を更に深める		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 ・過去問題回答状況 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽典 筆記用具		
授業外学習の方法	プリントや教科書による復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	楽典Ⅰ復習	プリント
	2	アナライズ1	楽曲の譜面、機能とコード進行の解析
	3	音階1	様々な音階 チャーチモード
	4	音階2	様々な音階 チャーチモード
	5	音階3	様々な音階 チャーチモード
	6	解決	Ⅱ-V-Iによる解決
	7	セカンダリードミナント	ダイアトニック外でよく使われるコード、サブドミナントマイナー
	8	豆テスト	プリント
	9	ボイスング	ボイスングの違いによる印象の受け方
	10	五度圏	説明
	11	パッシングコード	使用例
	12	終止法	ドミナントモーションやアーメン終止
	13	期末試験	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	楽典概論Ⅱ	指導担当者名	吉田雄帆
実務経験	プロとして音楽理論を理解し使用する演奏業務に5年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	楽典の知識を更に深める		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 ・過去問題回答状況 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽典 筆記用具		
授業外学習の方法	プリントや教科書による復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	アナライズ2	楽曲の譜面、機能とコード進行の解析
	2	テンションコード	テンションによるコードの表情の違いを知る
	3	音階2	マイナーの3つのスケールを知る
	4	ダイアトニック	マイナーのダイアトニックを知る
	5	豆テスト	プリント
	6	音階3	ドミナントの6つのスケールを知る
	7	リハーモナイズ	様々なコードの代理コードを知る
	8	主旋と副旋律	メロディに対するハモリを知る
	9	メロディ	和声音と非和声音を知る
	10	装飾音符	トリルを知る
	11	装飾音符	グリッサンドを知る
	12	装飾音符	フラムを知る
	13	後期テスト	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	Protools応用演習	指導担当者名	奥川晃司
実務経験	ProToolsを使用した業務に4年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	作曲からミキシングまで一人で行える様にする。その過程で分からない事、できない事などを解決しprotoolsを扱える様にする。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 protoolsを扱えているか、聞く側が気持ちよく聞ける音を作れているか。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	Protools ヘッドフォン		
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ptotools基礎の復習01	一年生時の復習、確認
	2	protools基礎の復習02	一年生時の復習、確認
	3	作曲からミキシングまでの流れ	流れを確認
	4	打ち込み01	ドラム、ベース、ピアノを打ち込む。
	5	打ち込み02	ドラム、ベース、ギターを打ち込む。エレキギターを録音する。
	6	ミキシング01	打ち込みで作ったものをミキシングする。
	7	ミキシング02	作品を打ち込む。
	8	音の聴き比べ01	EQやコンプレッサーをかける前とかけた後での音の違い
	9	音の聴き比べ02	エフェクターのかけ方やかけた後の変化を聞く
	10	打ち込み03	作品を打ち込む。
	11	ミキシング03	打ち込みで作ったものをミキシングする。
	12	音の聴き比べ03	エフェクターをかけた後とかける前の聴き比べ
	13	前期期末	制作物による評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	Protools応用演習	指導担当者名	奥川晃司
実務経験	ProToolsを使用した業務に4年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	56時間	週時間数	2時間
学習到達目標	作曲からミキシングまで一人で行える様にする。その過程で分からない事、できない事などを解決しprotoolsを扱える様にする。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 protoolsを扱えているか、聞く側が気持ちよく聞ける音を作れているか。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	Protools ヘッドフォン		
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	前期の復習	前期の復習
	2	ミキシング01	自分の作品、もしくは用意した作品をミキシングする。
	3	ミキシング02	空間系の処理
	4	ミキシング03	ダイナミクス系の処理
	5	ミキシング04	マスタリングでの処理
	6	発表	作品とミキシングしたものを発表。
	7	反省	反省点を見つけ、次に生かす。
	8	エフェクター&小技	エフェクターのかけ方や面白い使い方。
	9	打ち込み&ミキシング	作品を打ち込みからミキシングまで自分で作る。MIDIの処理
	10	打ち込み&ミキシング	作品を打ち込みからミキシングまで自分で作る。オーディオの処理
	11	打ち込み&ミキシング	ミックスダウン
	12	打ち込み&ミキシング	マスタリングでの処理
	13	後期期末試験	制作物による評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務概論Ⅱ		指導担当者名	菅井 雄作
実務経験				実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	就職活動指導 * 学生の進路にあわせて柔軟に指導してください。 (プロ希望、業界志望、その他企業志望)			
評価方法 評価基準	授業態度、提出物等 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	PC 筆記用具			
授業外学習の方法	就職活動を行う			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	1年次の確認	履歴書、入退室の確認	
	2	受験後の報告	動画なし 受験後の報告と内定後の生活、不合格した場合の振り返り	
	3	就職試験のマナー	5-1~5-2まで 面接、試験時の確認	
	4	巻末資料確認	"以前のテキストサクセス参照 P39~45 P94" 各種ビジネス文章の書き方やメール、インターネットを使用したときの注意"	
	5	履歴書確認 1	3-8 全体の書き方の見直し	
	6	履歴書確認 2	3-4~3-6-2 自己PRの見直し	
	7	履歴書確認 3	3-7~3-8 志望動機の見直し	
	8	履歴書確認 4	3-1~3-3,3-6~3-6-2 履歴書にふさわしい文章の書き方の見直し	
	9	面接対策 1	4-1~4-5 面接での振る舞いについて	
	10	面接対策 2	4-1~4-5 面接で緊張をした時の対策,緊張しないための対策	
	11	面接対策 3	4-1~4-5 面接での話し方について	
	12	個別指導	履歴書完成	
	13	期末試験	プリントによるテスト	
	14	期末試験フィードバック		
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	就職実務概論Ⅱ	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験			実務経験:
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1時間
学習到達目標	就職活動指導 * 学生の進路にあわせて柔軟に指導してください。 (プロ希望、業界志望、その他企業志望)		
評価方法 評価基準	授業態度、提出物等 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	PC 筆記用具		
授業外学習の方法	就職活動を行う		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	1年次の確認	履歴書、入退室の確認
	2	受験後の報告	動画なし 受験後の報告と内定後の生活、不合格した場合の振り返り
	3	就職試験のマナー	5-1~5-2まで 面接、試験時の確認
	4	巻末資料確認	"以前のテキストサクセス参照 P39~45 P94" 各種ビジネス文章の書き方やメール、インターネットを使用したときの注意
	5	履歴書確認 1	3-8 全体の書き方の見直し
	6	履歴書確認 2	3-4~3-6-2 自己PRの見直し
	7	履歴書確認 3	3-7~3-8 志望動機の見直し
	8	履歴書確認 4	3-1~3-3,3-6~3-6-2 履歴書にふさわしい文章の書き方の見直し
	9	面接対策 1	4-1~4-5 面接での振る舞いについて
	10	面接対策 2	4-1~4-5 面接で緊張をした時の対策,緊張しないための対策
	11	面接対策 3	4-1~4-5 面接での話し方について
	12	個別指導	履歴書完成
	13	期末試験	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習Ⅱ	指導担当者名	安藤 圭太
実務経験	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法、編集方法を習得する		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	ProTools		
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ドラム録音	ミックスを意識した録音
	2	ドラム録音	一人ずつミックスファイルを作成
	3	ベース録音	ミックスを意識した録音を試みる
	4	ベース録音	一人ずつドラムと合わせたミックスファイルを作成
	5	ギター録音	ミックスを意識した録音を試みる
	6	ギター録音	一人ずつドラム、ベースと合わせたミックスファイルを作成
	7	ボーカル録音	ミックスを意識した録音をする
	8	コーラス録音	ミックスを意識した録音をする
	9	インサートプラグイン	ダイナミクス系のプラグイン
	10	センド Rev送り	AUXを使用してみる
	11	AUX	AUXの考え方
	12	テスト対策	前期の復習
	13	前期期末試験	録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	録音実習Ⅱ	指導担当者名	安藤 圭太
実務経験	レコーディングスタジオ勤務、レコーディング・ミックス業務に15年間以上従事した経歴		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	ProToolsを用いた録音方法、編集方法を習得する		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	ProTools		
授業外学習の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	プレイリスト	プレイリストの作成方法
	2	オートパンチ	オートパンチインができるようになる
	3	ダイナミクス系エフェクター	リミッターの使い方
	4	空間系エフェクター	フェイザーの使い方
	5	オートメーション	オートメーションを使用したミックスの方法
	6	オートメーション	オートメーションを書いてみる
	7	Voピッチ調整	ピッチ補正の方法
	8	OKテイクとNGテイク	聞き分け方を知る
	9	OKテイクとNGテイク	ノイズの取り方を身につける
	10	マスタリング	ラウドネスメーターの見方
	11	マスタリング	マルチバンドコンプレッサーの使い方
	12	テスト対策	後期復習
	13	後期期末試験	録音操作を行い、ポイントを押さえているかで評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	楽曲制作実習Ⅱ		指導担当者名	吉田雄帆
実務経験	プロとして5年以上作曲・演奏活動に従事			実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	打ち込みや録音をし、オリジナル楽曲を作れるようにする			
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 条件に沿った楽曲の制作を課題とし、評価する 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する			
使用教材	Protools 楽器			
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	アンケート	プリント	
	2	オリエンテーション	自己紹介、授業内容の説明	
	3	Pro Toolsのセットアップ、使い方	Pro tools、PC	
	4	打ち込み	インストゥルメントやMIDIの取り扱い方を理解する	
	5	録音1	オーディオファイルの取り扱い方を理解する	
	6	作曲	Pro toolsを使ってみる	
	7	作曲	MIDIでの作曲をする	
	8	作曲	楽器を使用しての作曲を理解する	
	9	作曲	リズム隊の使い方を理解する	
	10	作曲	ハーモニーの効果を理解する	
	11	作曲	メロディの作り方を理解する	
	12	楽曲制作	テストへ向けて制作の準備	
	13	テスト	条件を提示して、それに沿った課題としてワンコーラス制作	
	14	期末試験フィードバック		
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	楽曲制作実習Ⅱ	指導担当者名	吉田雄帆
実務経験	プロとして5年以上作曲・演奏活動に従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	打ち込みや録音をし、オリジナル楽曲を作れるようにする		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・期末試験 条件に沿った楽曲の制作を課題とし、評価する 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	Protools 楽器		
授業外学習の方法	Protoolsを使用しての作曲		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	ダイアトニック	ダイアトニックコード、機能を理解する
	2	条件付き作曲1	テーマに沿った楽曲制作をする
	3	条件付き作曲2	テーマに沿った楽曲制作をする
	4	録音2	ミキシングや編集の仕方を理解する
	5	コード進行について	様々なコード進行、ダイアトニック外のコードの用い方を理解する
	6	コード進行について	Ⅱ-V-Iの進行を使用した作曲を理解する
	7	アレンジ	アレンジによる楽曲の広がり方、表情のつけ方、メリハリを理解する
	8	アレンジ	リズムアレンジを理解する
	9	構成について	Aメロ、Bメロ、サビ、Cメロの役目を理解する
	10	構成について	サビから始まる楽曲の制作を理解する
	11	復習	学んだことの復習
	12	条件付き作曲3	テーマに沿った楽曲制作をする
	13	テスト	条件を提示して、それに沿った課題としてワンコーラス制作
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究概論Ⅱ	指導担当者名	市川 和哉
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:○
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	音楽業界は様々な職業があって成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけそれを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。		
評価方法 評価基準	授業態度やレポート提出、試験結果を評価方法とする。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	筆記用具 PC		
授業外学習の方法	プリントでの学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介や今度の流れ、目標決定
	2	音楽業界の仕事	様々な職種を知りその中からやりたい職種を探す
	3	アーティストおよびそれを支える職種	自分がアーティストになったらどんな宣伝方法をするか?
	4	楽器店やスタジオの仕事とは	楽器製作、流通、販売、接客など覚える
	5	シールドを作成してみよう	プラグやシールドの発注
	6	ライブハウスの仕組みについて	ライブハウスはどのように成り立っているか
	7	イベンターとは	イベンターや企画会社のように自分たちで企画してみる
	8	イベンターとは	企画書提出、発表してもらう。
	9	動画・写真の活用	MVや宣伝動画、写真撮ってみる。
	10	動画・写真の活用	発表をして、他の生徒がどう思ったのかアンケートをとる
	11	音楽のチラシやCDなどのデザイン	音楽業界にも必要なチラシやデザインを知る
	12	音楽のチラシやCDなどのデザイン	できたデザインの提出
	13	前期期末テスト	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究概論Ⅱ		指導担当者名	市川 和哉	
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	音響・ミュージック科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:○	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	音楽業界は様々な職業があって成り立っているということ、自分がやりたい職種を見つけそれを目指し何を学習すべきか自分でしっかり把握する。なりたい職種にプラスその周りでどんな仕事が行われているかを知る。				
評価方法 評価基準	授業態度やレポート提出、試験結果を評価方法とする。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する				
使用教材	筆記用具 PC				
授業外学習の方法	プリントでの学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	前期の復習と課題発表			
	2	コミュニケーション能力を身に付けよう	コミュニケーションとは？グループで話し合う		
	3	コミュニケーション能力をみに付けよう	実際に関心を持ってもらう話をする(発表)		
	4	指導力を身に付けよう	自分の得意分野など指導案を作成する		
	5	指導力を身に付けよう	実際に他の生徒に指導してもらう		
	6	売れる商品(グッズ)を考えてみよう	音楽業界で発売されているグッズなど考え作成		
	7	売れる商品(グッズ)を考えてみよう	実際に売ってみよう!		
	8	著作権	著作権法とクリエイティブコモンズ		
	9	お金の動き	楽曲が売れてからアーティストに分配されるまで		
	10	違法音楽アプリ	違法音楽アプリの危険性		
	11	ストリーミング配信	apple musicをはじめとした配信音楽がどう成り立っているか		
	12	ライブとしての音楽	ライブにがどう成り立っているか		
	13	後期期末			
	14	期末試験フィードバック			
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	音響実習 II	指導担当者名	薄 崇雄
実務経験	コンサート業務・音響現場に40年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に35年以上従事		実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	様々な音響機器の操作および音響システム設計 表現手段としての音響機器操作		
評価方法 評価基準	音響システムプラン作成 マルチトラックミキシングによる音楽作品(CD)評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション、舞台技術の共通基礎		
授業外学習 の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	音響技術者の音の聴き方(実習)	モニタースピーカーを使用して、音楽のどういうところを聞いているか？を知る
	2	機材セッティング、エフェクター操作	ミキサー、アンプ、スピーカーなど機材をセッティングし、リバーブ、コンプレッサーなどのエフェクターがライブでどのように使われているかを知る
	3	アナログミキサーの操作	ミキサーとモニタースピーカーを用いてさらに深く操作方法を知る。
	4	デジタルミキサーの操作	ミキサーとモニタースピーカーを用いたデジタルミキサーの使用方法を知る
	5	EQの操作 I	ミキサーとモニタースピーカーつかいEQがどういう働きをするか理解する
	6	舞台照明実習(予定)	ライト・ヴァージによる照明の授業
	7	EQの操作 II	ミキサーとモニタースピーカーを使用して過度なEQの掛け方を理解する
	8	エフェクターの操作 I	ライブにおける適正なリバーブを知る
	9	エフェクターの操作 II	ライブにおける適正なディレイを知る
	10	EQ,エフェクターの操作(プロツールズ)	ProToolsを用いてEQやエフェクターを使用してみる
	11	PAシステム調整	PAシステムの調整方法を知る
	12	PAシステム操作	PAシステムの操作法を知る
	13	前期期末	プリントによるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	コンサート業務・音響現場に40年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に35年以上従事			実務経験:	有
実務経験	コンサート業務・音響現場に40年以上従事、また舞台機構調整技能士検定委員に35年以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	音響・ミュージック科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	様々な音響機器の操作および音響システム設計 表現手段としての音響機器操作				
評価方法 評価基準	音響システムプラン作成 マルチトラックミキシングによる音楽作品(CD)評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する				
使用教材	舞台音響技能検定過去問題ナビゲーション、舞台技術の共通基礎				
授業外学習 の方法	空き時間を利用し、機材を使用した自主学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	マルチトラックミキシング素材入れ込み	プロツールの概要を個人PCを使用して知る		
	2	素材確認、試聴	ミックス方法と合格点ラインの試聴		
	3	マルチトラック荒ミキシング、試聴	Protoolsを用いてミキシング		
	4	マルチトラックミキシング(ヘッドフォン)	ヘッドフォンでのミキシング		
	5	マルチトラックミキシング(音量)	音量バランスのミキシング		
	6	マルチトラックミキシング(EQ)	EQを使用する		
	7	マルチトラックミキシング(EQ)	EQを使用した補正		
	8	マルチトラックミキシング(エフェクター)	リバーブやディレイを使用したミキシング		
	9	マルチトラックミキシング(エフェクター)	最終調整		
	10	マルチトラックミキシング(総合)	マスタートラックへのプラグイン挿入		
	11	マルチトラックミキシング(マスタリング)	2MIX後のマスタリング		
	12	CD焼き込み	ブランクCDに焼く		
	13	後期期末試験	プリントによるテスト		
	14	期末試験フィードバック			
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	アンサンブルⅡ		指導担当者名	片桐 信吾	
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事			実務経験:	有
開講時期	通年 前期・後期		対象学科学年	音響・ミュージック科 2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:○	
時間数	84時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	アンサンブルの音楽以外の意味を理解する。アンサンブルに必要な知識と技術の習得を目指す。とりわけセッションの分野での自己表現を学習する。全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。				
評価方法 評価基準	出席、授業態度、単純な技術と知識、個性などをテストも踏まえ総合的に判断する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する				
使用教材	楽器				
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	セッションのルールと知識	セッションとはどういうものかを理解する		
	2	12小節のブルース進行	キーを変えコードと小説の感覚も鍛える。		
	3	8ビート、16ビート。	リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。		
	4	裏のリズム。ディスコビート。	IDM系リズムと曲の学習。		
	5	12/8ビート。シャッフル。	シャッフルの感覚と曲の学習。		
	6	ビートシフト。感覚トレーニング。	グループを出すための感覚の習得。		
	7	バウンス。ファンク。	スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。		
	8	ハーフタイムシャッフル。	ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標にシャッフルを覚える。		
	9	ボサノバ。レゲエ。	ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。		
	10	サンバ。	速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。		
	11	ジャズ2ビート、4ビート。	ジャズスタンダードを学習する。		
	12	奇数ビート。	奇数曲と感覚を学習する。		
	13	テスト	演奏によるテスト		
	14	期末試験フィードバック			
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	アンサンブルⅡ	指導担当者名	片桐 信吾
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事		実務経験： 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年
授業方法	講義：	演習：	実習： 実技：○
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	アンサンブルの音楽以外の意味を理解する。アンサンブルに必要な知識と技術の習得を目指す。とりわけセッションの分野での自己表現を学習する。全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。		
評価方法 評価基準	出席、授業態度、単純な技術と知識、個性などをテストも踏まえ総合的に判断する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽器		
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	楽曲「スペイン」	リズムを覚える
	2	楽曲「スペイン」	コード進行を覚える
	3	楽曲「スペイン」	メロディを覚える
	4	楽曲「スペイン」	アドリブをみんなで回す
	5	楽曲「スペイン」	合奏
	6	楽曲「ラフィエスタ」	進行を覚える
	7	楽曲「ラフィエスタ」	リズムを覚える
	8	楽曲「ラフィエスタ」	総合的な曲を学習する。ポップスやロックも。
	9	楽曲「ラフィエスタ」	メロディを覚える
	10	楽曲「ラフィエスタ」	アドリブをみんなで回す
	11	楽曲「ラフィエスタ」	合奏①
	12	楽曲「ラフィエスタ」	合奏②
	13	テスト	総合的な曲を学習する。ポップスやロックも。
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習Ⅱ	指導担当者名	片桐 信吾
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。		
評価方法 評価基準	出席、授業態度、単純な技術と知識、個性などをテストも踏まえ総合的に判断する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽器		
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	セッションのルールと知識	
	2	12小節のブルース進行	キーを変えコードと小節の感覚も鍛える。
	3	8ビート、16ビート。	リズムを変えて。ポップスやロックも取り入れる。
	4	裏のリズム。ディスコビート。	IDM系リズムと曲の学習。
	5	12/8ビート。シャッフル。	シャッフルの感覚と曲の学習。
	6	ビートシフト。感覚トレーニング。	グループを出すための感覚の習得。
	7	バウンス。ファンク。	スタンダードや流行の曲を取り入れてバウンスを学習。
	8	ハーフタイムシャッフル。	ゆっくりから高速まで体と感覚を一致させる事を目標に。
	9	ボサノバ。レゲエ。	ポップスやロックに定番アレンジのリズム学習。
	10	サンバ。	速い体の動きを学習する。裏と1、4拍を感じる。
	11	ジャズ2ビート、4ビート。	ジャズスタンダードを学習する。
	12	奇数ビート。	奇数曲と感覚を学習する。
	13	テスト	演奏によるテスト
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	実演実習Ⅱ	指導担当者名	片桐 信吾
実務経験	音楽関係会社社長(楽器販売、レコーディングスタジオ、音楽教室等)、またプロミュージシャンとして演奏の業務に10年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科 2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	全ての楽器に必要なリズムとその感覚を学習する。		
評価方法 評価基準	出席、授業態度、単純な技術と知識、個性などをテストも踏まえ総合的に判断する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	楽器		
授業外学習の方法	楽譜と楽器を使用しての学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	難易度の高い曲の完成。	リズムを覚える
	2	難易度の高い曲の完成。	コード進行を覚える
	3	難易度の高い曲の完成。	メロディを覚える
	4	難易度の高い曲の完成。	アドリブをみんなで回す
	5	難易度の高い曲の完成。	合奏
	6	難易度の高い曲の完成。	進行を覚える
	7	難易度の高い曲の完成。	リズムを覚える
	8	難易度の高い曲の完成。	コード進行を覚える
	9	難易度の高い曲の完成。	メロディを覚える
	10	難易度の高い曲の完成。	アドリブをみんなで回す
	11	難易度の高い曲の完成。	合奏①
	12	難易度の高い曲の完成。	合奏②
	13	テスト	
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	企画制作実習Ⅱ	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	イベント企画運営事業に3年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	校内ライブやホール実習を制作運営することで、ステージの運営の仕方や制作方法を学び、誰でもわかりやすい書類の作成をできるようにする。 また、自発的に実習が動けるようにする。		
評価方法 評価基準	授業中の積極性や実習中の動きで評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	PC 音響機材 照明機材 ペン		
授業外学習の方法	プリントによる学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	照明機材の操作方法と考え方	LEDの設定を試みる
	2	照明機材の操作方法と考え方	照明の立て方などによる危険を知る
	3	照明機材の操作方法と考え方	デジタル信号を理解する
	4	照明機材の操作方法と考え方	照明卓の扱い方を知る
	5	照明機材の操作方法と考え方	音楽に合わせて照明を付ける
	6	音響機材の操作方法	オーディオ信号の流れを確認する
	7	音響機材の操作方法	結線方法をできるようにする
	8	音響機材の操作方法	スピーカーチューニングのやり方を身に付ける
	9	音響機材の操作方法	音響システムを組み上げができるようにする
	10	ホール実習制作	音響に必要な回線表を理解する
	11	ホール実習制作	舞台照明用の仕込み図を理解する
	12	ホール実習制作	ステージ運営に必要な香盤表(スケジュール表)を理解する
	13	前期期末	校内ライブ及びホール実習の動きによって評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	企画制作実習Ⅱ	指導担当者名	菅井 雄作
実務経験	イベント企画運営事業に3年以上従事		実務経験: 有
開講時期	通年 前期・後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	84時間	週時間数	3時間
学習到達目標	校内ライブやホール実習を制作運営することで、ステージの運営の仕方や制作方法を学び、誰でもわかりやすい書類の作成ができるようにする。 また、自発的に実習が動けるようにする。		
評価方法 評価基準	授業中の積極性や実習中の動きで評価 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する		
使用教材	PC 音響機材 照明機材 ペン		
授業外学習 の方法	プリントによる学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	必要書類作成: 舞台平面図	舞台平面図の構造を理解する
	2	必要書類作成: 舞台平面図	舞台平面図の作成に必要な長さの計り方を理解する
	3	必要書類作成: 舞台平面図	自分たちで舞台平面図を作ってみる
	4	必要書類作成: 回線表とブロック図	音響に必要な回線表とブロック図の復習
	5	必要書類作成: 回線表とブロック図	自分たちで作ってみる回線表とブロック図を作ってみる
	6	舞台での立ち回り	どういう所に危険が潜んでいるか予知できるようになる
	7	舞台での立ち回り	周りを見ることで助けが必要な個所やパワーバランスを見れるようにする
	8	舞台での立ち回り	導線という考え方を理解する
	9	舞台での立ち回り	設営時に気をつけることを知る
	10	ホール実習制作	ホールを借りるときに必要な消費電力の計算方法を知る
	11	ホール実習制作	台本の作り方を知る
	12	ホール実習制作	良い音に仕上げる方法を知る
	13	後期期末試験	校内ライブ及びホール実習の動きによって評価
	14	期末試験フィードバック	
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	国際デザイン研究	指導担当者名	山田直美	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:	
時間数	48時間	週時間数	7日間/48時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・海外文化に触れ日本の文化と共にそれを尊重できる事、また、海外文化を楽しむ事が出来る事 ・学校で学んだ知識と技術を海外イベントに参加発信とアピールが出来る事 ・海外での業界事情を視察研修し、日本国内と比較してレポートにまとめる事 ・集団行動の徹底が出来る、また多くの国の人々が集まる場所で節度ある行動が出来る様になる事 			
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・準備の徹底 ・集団行動の場面での時間管理が出来たか ・研修先で積極的に自ら行動が出来たか ・国際デザイン研究のまとめレポート提出と内容 			
使用教材	PC、筆記用具、カメラ、その他			
授業外学習の方法	事前準備(パスポート取得や旅行用品準備など)の徹底と、事後のレポート制作の為のまとめ			
学期	ターム (日)	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	出発~入国	成田空港利用、国際線でのマナー徹底 国外への出入国手続き、海外入国後ホテル宿泊	
	2	海外滞在1日目: イベント準備など	海外イベント参加に向けた出展準備 その後、自由行動と集団での国内研修	
	3	滞在2~4日目: A,B,C班に分かれて行動	A: イベント出展当番~国内集団研修~自由行動	
	4	*A~C班に分かれ	B: 国内集団研修~自由行動~イベント出展当番	
	5	3つの旅程をローテーションする	C: 自由行動~イベント出展当番~国内集団研修	
	6	滞在5日目(最終日)	全員でイベント出展の後片付け、その後集団での国内研修	
	7	帰国~到着	現地空港から成田に到着後、学校へ戻りその後解散 成田空港利用、国際線でのマナー徹底、日本帰国手続き	
	履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・国際デザイン研究に何らかの理由で不参加の場合には認定試験を受験することとする。 ・また、国際デザイン研究行程期間も学校へ登校し、それぞれ決められた課題の作成と提出を義務づける。 ・参加者については国際デザイン研究終了後、決められた期間までにレポートを提出する事 				

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	菅井雄作	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	音響・ミュージック科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:	
時間数	180時間	週時間数	6週/180時間	
学習到達目標	・卒業生:2, 3年間の集大成として学んだことを発揮する			
評価方法 評価基準	・修了生:それぞれの学科の規定により定められた以上の分量、質で卒業生としての集大成となる作品制作をすること また、学科内で行われるプレゼンテーションにて完成品を発表し、卒業修了制作展で作品展示をすること 評価項目「作品の量」「作品の質」「完成度の高さ」「企画の質」「プレゼン能力」			
使用教材	それぞれの学科制作毎の規定に沿った画材、教材を使用する事			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム (週)	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	作品制作開始	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作2	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作3	中間発表を行い、プレゼンテーション準備と展示企画についても 可視化していく	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施 学科担任、学科非常勤講師、学科内学生全てでプレゼンテーションを聞く ・制作のポイント ・展示計画 ・プレゼン能力 ・資料の見やすさ など	
	5	発表を受けての修正と展示準備	各教室での展示計画と準備、 また、プレゼンテーションで受けた指摘の修正と追加制作	
	6	卒業・修了制作展	展示計画の基づき展示をし、外部の一般来場者を入れての作品発表を実施 ・学科内の作品の見どころの紹介 ・一般来場者の対応 *学科内シフトにより登校 展示終了後は撤収と作品保管をする	
	履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、プレゼンテーション機会を与えない ・プレゼンテーションにて不合格だった場合、修正し、翌週期限を設け再プレゼンテーションを実施 そこで一定の評価があれば合格とする ・再プレゼンテーションで不合格の場合認定となる 				